

令和3年度2学終業式（高校）

2学期が本日で終わります。思い返せば、2学期は緊急事態宣言下で始まり、いきなり時差登校、新型コロナウイルスの感染がかなり拡大、それでも学校生活を続けていかねばならず、今まで以上の感染予防に努めながら、学校生活を続けていくしかありませんでした。伝統の國學院祭、文化祭、体育祭も再び中止、部活動も自粛、宣言が解除されて一時状況が良くなったものの、現在、新たなウイルスの脅威に晒され、本当に我慢の日々が続いています。

そうした中でも、皆さんは苦難によく耐えて、頑張ってきました。相変わらず朝早く登校し、放課後も教室や職員室、教育センターで勉強、特に3年生は熱心に推薦入試の指導を受けている姿をあちらこちらで目にしました。部活動も大会が再び行われるようになりましたが、この後も表彰や全国大会の壮行式があるように、立派な成績を収めました。こうした負けずに戦ってきた皆さんの様子を非常に嬉しく思いますし、誇りに思います。

ただ、現在、海外では再び感染拡大となり深刻な状況です。日本も少し感染者数が増えていますし、変異株の感染拡大が心配です。3年生は、まだ多くの人が受験を控えています。部活動も大会を控えています。何度も言ってきましたが、検温、手指消毒、マスク着用を引き続き徹底して下さい。もう一度言います。命、健康、そして一人ひとりの未来・夢・目標を守る行動をしましょう。最初にそのことを言っておきます。

さて、三者面談を行っており、そこで皆さんが目標や夢を語り、そのためにどうすべきかということを担当の先生とおうちの人と皆さんとで話していくという考え方によっては、幸せな時間です。本気で皆さん一人ひとりのことを真剣に考える時間を持つわけですから。まずは、一度素直に様々なアドバイスを心に入れてみてください。

ところで知っている人も多いと思いますが、Creepy Nuts という R-指定、DJ 松永という2組のラップのミュージシャンがいます。（DJ 松永はオリンピックの閉会式に出ていました）彼らの『かつて天才だった俺たちへ』の曲がラジオから流れてきているのを聴いて良い歌詞だなあと思ったことがありました。そのこともあって、彼らにインタビューをした TV 番組を観たのですが、こういうことを言っていました。「『どうしたら日本一のラッパーになれるのか』『どうしたら世界一の DJ になれるのか』（R-指定は日本の大会、DJ 松永は世界大会で優勝しています）とよく訊かれるのですが、そこは一番美味しいところであって、それを奪っては申し訳ない。そこが何よりも楽しいところで、そのためにあれこれやってみて、苦しみも味わいながら、悩みながら苦労してそれを掴むということが良いこと」というのです。そこにはアドバイスも受けながら、教えてもらいながらも、結局は自分で産み出すものなのということでしょう。そうしたものが本物であるし、絶対に強いものであると思います。それを今の

うちに楽しみながら築きましょう。

もう一つ、先ほどの『かつて天才だった俺たちへ』の歌詩なのですが、その一部を挙げてみます。

「苦手だとか 怖いとか 気づかなければ 俺だってボールと友達になれた」

「頭が悪いとか思わなければ きっとフェルマーの定理すら解けた」

「力が弱いとか 鈍臭いとか 知らなきゃ 俺が地球を守ってた」

そして、

「生まれてこの方 一体いくつ分岐点を見過ごしてきたんだろうか」

「墓場に入るまで あと一体いくつ可能性を摘んでしまうんだろうか」

しかし、後悔で終わるのではなく

「だけどワンチャンス まだ余白あるさ」

「何にだってなれた **another way**」

「まだ あきらめちゃいない」

そうですね。皆さん、上手くいかないことも挫折も人生はあります。私もその繰り返しです。しかし、可能性を信じて前へ進むしかないのです。必ず道は拓けます。